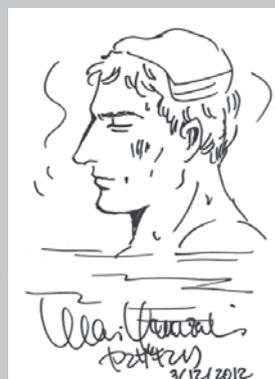




【ヤマザキ マリ さん】 アメリカ合衆国シカゴ在住
●漫画家 テルマエ・ロマエの作者
幼少期を千歳で過ごす。現在、シカゴで暮らし、東京や実家のある千歳を行き来しながら活躍している。

私にとって、原点は千歳です。



テルマエ・ロマエの主人公「ルシウス」

古

代ローマ時代の浴場を設計する技師が、現代の日本にタイムスリップして、日本の優れたお風呂の技術や文化を古代ローマに持ち帰って大活躍する漫画「テルマエ・ロマエ」の作者です。「テルマエ・ロマエ」は、ラテン語で「ローマの浴場」を意味します。

ヤマザキさんは、小学生から中学生まで、千歳に住んでいました。

小さい頃は、外で遊ぶことが大好きで、千歳川や青葉公園などを遊び場にして、魚釣りや虫採りなどを楽しむ、家の中にはほとんどいない活発な女の子だったそうです。

「この頃から、絵を描くのは好きでしたが、漫画は描いたことはなく、少年漫画をよく読んでいました」と話します。

「漫画を描き始めたのは、27歳のときです。油絵をやったかったので、17歳のときイタリアに留学し、10年間過ごしていましたが、生活費をやり繰りするため漫画を描きはじめました。それまで、漫画家になるとは夢にも思っていませんでした」と当時を振り返ります。

「テルマエ・ロマエ」は、2008年から描き始めたそうです。お風呂をテーマにしたのは「イタリアで暮らしていたとき、お風呂の湯船がある家に住んでいなかったたので、湯船につかるのが恋しくなり、入りたいのに入れなかったため」との答えが返ってきました。

「いろんな方に、どうしてこの漫画を描いたのかとよく聞かれますが、これまでに一万回くらい同じ答えをいっています」と笑いながら話して

くれました。

「テルマエ・ロマエ」も、5巻目が発行されており、いよいよエンディングに向かっていっているそうです。いまは、新たな連載に向けて、イメージング中とのこと。

ヤマザキさんは、自分が小学生のときに経験したことをもとに「ルミとマヤとその周辺」という漫画も描いています。

「昭和40年から50年代の千歳を舞台にして、子供のころの楽しかった思い出などをストーリーにしています。古くから住んでいる方なら、あそこのお店だ、あの場所だと、すぐに分かると思います。皆さんも機会があれば読んでみて、昔を思い出してみてください」と楽しく語ってくれました。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



ヤマザキ

MARI
YAMAZAKI

マリ

さん